





























高岡市指定 天然記念物

浅井神社の杉並木

昭和四十五年七月十七日指定

この杉並木は、延喜式内社赤丸浅井神社の参道
両脇に約二百mあまりに渡って立ち並んでいます。
樹齡は、二百〜四百年あまりとされていまして、
少なくとも現在の景観が江戸時代のはじめまで適
ることになります。

戦前には富山県指定の天然記念物にも名を連ね
ていましたが、台風や降雪等による倒木が増加し
たため、県の指定は解除されてしまいました。

並木の現状は、側溝と道路面の盛土に挟まれ、
参道の中心軸から両脇に傾いており、良好な生育
環境とはいえません。このため平成九年には、傾
木どうしの先端をワイヤーで固定したほか、土壌
改良を行うなど、杉並木の保存に努めています。

養老元年（717）の創建と伝える古い来歴を
有する浅井神社の境内には、多くの巨樹古木が生
育しています。その中には県指定天然記念物「赤
丸浅井神社の大けやき」や町指定天然記念物「浅
井神社のけやき」があり、荘厳な杜を醸成していま
す。

高岡市教育委員会



浅井神社と川人家

五位庄五十三ヶ村総社浅井神社は、一延喜式
内侍であり、越中園三十四座、砺波郡七座の
座の一座でも、浅井神社の社僧は初代が老
元年(七一七)行基と傳えられ、本地仏に毘沙
門天を、垂迹神として高皇産靈神を配して繪山
谷を「川人中」、焼堂号を「鞍馬寺」と号していま
した。

神社の前面を走る「山根往來」は、加賀の国府
と伏木の国府を結ぶ古代の官道として整備され、
「川人駅」が赤丸付近に設置されたと推定されて
います。

明治時代になって、郷社に列せられ、砺波地域
をはじめ近隣の尊崇を集めています。川人家は、
浅井神社の神職として、永年奉仕してきました。

第四十七代宮司川人貞現氏の長男川人貞史
氏は、現代政治学の研究が高く評価され、平成
二十一年六月、日本の学術賞として最も卓越ある
日本学士院賞を受賞し、現在東京大学大学院
教授として在職しています。

平成二十一年九月

浅井神社氏子総代会









赤丸浅井神社の大けやき跡

この場所には、樹齢千二百年以上ともいわれる大けやきがあった。元々は地上高四メートルのところ、幹が三つに分かれていたが、昭和九年（一九三四）の落雷により縦裂が生じたため、二幹を伐採し、一幹が残された。昭和二十三年四月二十四日に富山県指定文化財に指定されたが、当時は樹高約二十メートル、幹回り約九・三メートルあり、富山県内で最も大きな幹回りを持つけやきであった。その後、地元住民や氏子継代会が中心となり樹木の保全を図ってきたものの、徐々に樹勢が弱まり、平成二十五年八月に倒壊したため、やむなく指定解除となった。

赤丸浅井神社は、養老元年（七一七）に建立されたと伝えられており、延長五年（九二七）に施行された法典「延喜式」の「神名帳」に記載されている延喜式内社（越中国三十四座、礪波郡七座の中の一）と伝えられる。

◎富山県文化財保護条例改正に伴い、昭和四十年十月一日に改めて県指定天然記念物の指定を受けていた。



昭和四十年十月一日に改めて県指定天然記念物の指定を受けていた。

平成二十六年十二月二十六日
高岡市教育委員会



昭和初期の「赤丸浅井神社の大けやき」
昭和16年浅井神社社務所発行
「郷社浅井神社繪葉書」より
写真提供：砂田あや子氏



高岡市指定 天然記念物

浅井神社のけやき跡

昭和四十五年七月十七日指定

浅井神社のけやきは、延喜式内社である浅井神社本殿の東側五垣に接して立っています。幹回りは、六・四mあり約十m程のところで幹が2つに分岐しています。

樹齢千年以上ともいわれるこのけやきは、同じ境内にある県指定天然記念物のけやきに優るとも劣らない巨木です。

また、このけやきは他のけやきに比べて、早く芽吹いて落葉します。ちようと、その時期が神社の春祭り・秋祭りと重なる頃にあたるため、万物の生命活動の象徴であるものとして見立てられ、枝葉の残りぐあいでその年の収穫を占ったと伝えられています。

なお、平成十六年には、腐蝕していた枯幹の上部を切断して防腐処理を実施するとともに、宿り木や周辺樹木を撤去し、けやきの生育環境の保全が図られています。地元氏子を中心とするこうした保存修理に対する取組みからも、この木が今も神木として崇敬を集めていることがわかります。

高岡市教育委員会



























